

仕事と私

グループ6 藤原ひかり（ふじわらひかり）

私にとって大切な社会は、将来仕事をする場です。私は幼いころから看護師になりたくて、現在看護学を専攻し勉学に励んでいます。幼いころは、ただ「優しそうな白衣の看護師」に憧れたのかなんとなくなりたいくらいにしか考えていませんでした。しかし、私が高校2年生の時、祖父の死がきっかけで看護師になりたいという思いが明確になりました。私は祖父が亡くなるまで祖父が膵臓がんであることを知りませんでした。祖父の体調が優れなくて大嫌いな病院に入院したことは知っていましたが、たいした病気ではないと思っていました。祖父が亡くなった後、膵臓がんという病気について調べてみると、黄疸などの誰が見てもわかるような症状を私は何回も見ていたことや、膵臓がんとはがんの中でも最も死亡率が高い病気であることを知りました。しかし、私はこういったことを知らなかったもので、何の心の準備もできていないまま突然祖父を失い、祖父の病気に気づいてあげられなかったことや、祖父が亡くなるまでに何もしてあげられなかったことが悔しくてたくさん泣きました。そんな時私は一人の看護師さんの言葉で救われました。それは「あなたのおじいちゃん、頑張ってたよ。」という言葉でした。実際に祖父は余命よりも長く生き、仕事への復帰や自動車運転免許の更新をすると意気込んでいたそうです。私はこの言葉を聞いて大好きな祖父がほめられたことが嬉しかったし、祖父らしいなと思えて気持ちが穏やかになりました。祖父の生前、私はかなりのおじいちゃんこでした。それは、祖父が私にとっても甘く優しくかったからだと思います。私が幼いころ、祖父は習い事の帰りに迎えにきて、夏はアイスクリーム、冬は肉まんを買ってくれました。祖父は祖母から私にあまり物を与えないように言われていたので、「ばあちゃんには内緒だぞ。」とよく言っていました。また、祖父はよく祖母と母と姉と私を買い物に連れて行ってくれましたが、長時間車の中で待っているのが大嫌いでした。長時間待たせて車に戻ると、いつも祖母にどなっていました。あるとき、祖父をかなり待たせた日がありました。車に戻る前に祖母がコーヒーを買って、私から祖父に渡すように言われました。私は「なんでコーヒーを買った祖母ではなく私が渡すのだろうか？」と思いながら、車に戻ってすぐ祖父にコーヒーを渡しました。コーヒーを受け取った祖父は上機嫌で「またひかりのタクシーやんないとな！」と言っていました。祖父を長時間待たせて怒らなかったのはそれが初めてでした。また、中学生になってからは祖父と祖母が私の家の近くに引っ越してきたので、よく会いに行きました。私が行くと祖父が喜んでくれるのが嬉しくて、よく行きました。祖父の2人の娘や4人の孫の中では、一番頻繁に会っていたと思います。そのため祖父はよく「孫の中でひかりが一番かわいい。」と言っていました。私は姉たちには申し訳ないけれど、とても嬉しかったです。このように私は祖父が大好きだったので、あの言葉で救われました。そしてあのことがあってから、あの言葉をかけてくれた看護師のようになりたいと強く思うようになりました。現在、私は大人として自立したいし、看護師として多くの人と関わり役に立ちたいという思いが強いので、将来仕事をする場は私にとって大切なのです。

散歩では、秋田大学の教育文化学部3号館など求人情報や就職に関するパンフレットが

ある場所に行きました。同じ秋田大学生でも学部が異なると将来する仕事も異なると思うので、教育学部の学生はどういった仕事をしたいのか、またどういった求人情報があるのか興味があったので行きました。求人情報では、保育士に関するものが大半でした。またポスターやパンフレットのようなものには、キャリアアップという言葉が書かれていたり、大学外での講習会の広告があったりしました。求人情報については、もっとたくさんの職種のものがあると思っていたので少なくて驚きました。キャリアアップという言葉や講習会については、そういったものが学生に求められているのかなと思いました。グループのメンバーの安さんは、もともと日本の若者の就職に関することに興味があるようで、パンフレットを熱心に読んでいました。外和さんは、私と同様自分の学部のことしか知らず、多くの求人情報が並んでいて、関心があるようでした。

グループの話し合いでは、2人とも「現在私が看護師になりたくて看護学を専攻していることが良いと思う、素敵だと思う」と言ってくれました。また外和さんは、「もう看護学を専攻し看護師になると決めていて他の職業に変えることは難しいから、それ相応の覚悟が必要だと思う」とも言っていました。確かに現在の私の専攻では、看護師か保健師、助産師にしかなることができません。他の職に就くことも不可能ではありませんが、現在学んでいる看護の知識やそれを学ぶために費やした時間やお金のことを考えれば、将来の職業を今から変えるのは難しいと思います。現在は看護師になるという思いが固まっているためもう忘れていましたが、高校生の時は外和さんが言うような「それ相応の覚悟」が自分にあるのか考えた時期があったことを思い出しました。その時は、看護師の職業体験をしにいて患者さんの食事介助をしたり、一緒にお話したりする中で、患者さんが笑ってくれたり、「ありがとう。」って言うてくれたりして看護師の仕事はやりがいのある仕事だと思いました。また、先に述べたように祖父の死でより看護師になりたいという思いが強くなったこともあり、自分の中では他のどの職業でもなく看護師になるという「それ相応の覚悟」ができました。さらに安さんは、「病気について勉強が必要なことや家族に対してもケアが必要なこと、患者さんが苦しい時看護師として傍にいたいことやどのような状況でも自分の気持ちをセーブして働かなければならないことなど、看護師の仕事はすばらしいけれど大変そう」と言っていました。私も看護師の仕事は大変だと思います。どんな仕事でも言えることかもしれませんが、幅広く多くの知識や技術を備えなければならぬし、ともに働く医師や患者さんと良い信頼関係をつくっていかなければなりません。また他の職業と異なる点は、これらのことを怠ると、患者さんの健康や生死に直接関わるということです。そしてどんなにできる限りの治療や看護を尽くしても、症状が悪化したり亡くなったりする患者さんがいます。そういったとき、安さんの言うように、「自分の気持ちをセーブさせ、患者さんやその家族のケアを優先させる」ということは、とても大変なことだと思います。そういった経験はまだしたことがないし、これからそのような場面に居あわせる覚悟はありますが、実体験したときの自分の気持ちやその後のストレスははかりしれません。安さんの意見からこうして考えてみると、ただ単に大変だという考えだけでなく、自分が今学んでいることは、将来の患者さんの健康や生死を左右するという真面目な態度で学習する必要があると思いました。また、現在の自分は勉強を怠っていると反省しました。2人の意見により、思い出し再確認したり、新たな考えを持つたりすることができました。

また、2人にも自らの将来の仕事について話してもらいました。外和さんは、大学に入ってから自分の専攻している分野の知識を生かせる花王などの化粧品や洗剤を作る企業で働きたいと思うようになったと言っていました。外和さんはまだ1年生でこれからいろいろな分野のことを勉強したり、どの職業に就くか考えたりする機会がたくさんあると思うので、じっくり考えて、今考えている仕事でも気持ちが変わって新しくやってみたくなった仕事でも、外和さんに合う自分がしたい仕事をしてほしいと思いました。安さんは、私と同じ「仕事と私」というテーマでしたが、現在の自分の専攻やこれから進もうとしている専攻と自分が将来したい仕事と一致しないという点で、私とは状況が異なりました。安さんは現在、4か国語を話せることを生かして通訳の仕事がしたいそうです。大学3年生の時に1回実践して楽しいと感じたことで、この仕事をしたいという思いが強くなったと言っていました。しかし、大学や大学院では、この仕事に合う専攻がないのだそうです。そのため、通訳の仕事をするのは難しいと考えているようでした。私はこの話を聞いて、安さんの4か国語を話せるという長所が生かせないのはもったいないし、自分のしたい仕事をあきらめなければならぬかもしれないということは残念だと思いました。

グループでの話し合いを終えて、仕事という社会が私にとって大切であるのは、将来私がするであろう看護の仕事は、本当にしたい仕事であるからという部分が大きいように感じました。本当に自分のしたい仕事もう決まっているということは、不思議に思う人もいるかもしれませんが、これは私なりにいろいろ考えて見つけた結果です。私は小学生のころから、人のためになる・人の役に立つ仕事がしたいと考えてきました。幼いころの私は、知っている仕事の種類や数が現在と比べてあまりにも少なく、「人の役に立つ＝優しい看護師」というような安易な考えで、「自分は看護師になるのだろうか」と思いこんでいました。しかし、この時から「病気の人を助けたい」という思いがずっと私の頭の中にありました。中学生になってこの思いが変わることはありませんでしたが、「人の役に立つ仕事なら他にもあるのではないか」と何度か悩みました。高校生になって「病気の人を助ける」ためにいろいろな職業の人が関わっていることを知りました。医師や看護師はもちろん、薬を作る薬剤師、リハビリを手伝う理学療法士、病院のベッドや車いすを作る人など考えれば考えるほど多くの人に関わっていると思いました。そこで私はどの仕事をして病気の人を助け、支えようか考えました。その中で私は直接患者さんと関わりたいと思いました。私は幼いころから人と話したり、人のために何かしたりすることが好きでした。そして、その人が直接「ありがとう。」と言ってくれたり、笑顔になるのを見たりする瞬間が、自分が一番嬉しい時でした。そのため、私は直接たくさんの患者さんと関われる看護師の仕事は、自分に向いていそうだし、やってみたいと思いました。医師や理学療法士でも直接患者さんと関わることはできますが、長い時間患者さんの一番傍で話を聞いたり、看護行為を行ったりして支えとなれるのは看護師かなと思いました。そして先に述べたように実際に看護師の職業体験に行き感じたことに加え、祖父の死によるある看護師との出会いにより、看護師になろうという気持ちが固まりました。そして今に至ります。私は看護師になったら、昔から考えてきたように、「病気の人を助けたい」です。そして現在新たに患者さんの家族など「患者さんに関わっている人も助けたい」と思っています。「助けたい」と言うのは、病気が回復に向かうということだけでなく、患者さんやその家族の気持ちが良い方向に向かうということも含まれます。このことが実現するためにも、今は真面目に看

護の勉強を頑張りたいと思います。また、たくさんの人と関わり、刺激を受けたり、自分にはない新しい考えを持てたりできたら嬉しいです。

社会とは何か。それはたくさん人間がともに生きている場だと思います。人が集まればそこが社会なのだと思います。そのため、私は今まで色々な社会で生きてきたし、これからも今まで生きてきた社会だけでなく、新しい社会で生きていくのだと思います。

最後に、このクラスに参加できて本当に良かったです。私のグループでは最終的に皆同じテーマになり、自分の将来の仕事について熱く語れたし、2人とも真剣に聞いてコメントをくれました。また、同じテーマでも状況の違う2人の将来の仕事についての話も聞けました。さらに、レポートを作ったり、2人に説明したりするために、自分の今の素直な気持ちは何かを考え、自分自身の気持ちを知ることができ良かったです。